

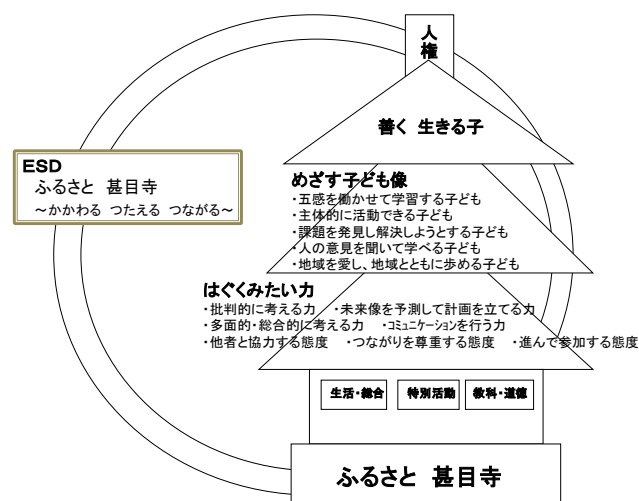
『ふるさと甚目寺「かかわる」「つたえる」「つながる」

ー人権教育を柱としたESDの取り組みー

あま市立甚目寺小学校

1 目的

甚目寺小学校では、人権教育を柱とし、人権教育の基本とされる「自他の人権を尊重する意識を磨くこと」「コミュニケーションの能力を高めること」「自己肯定感を高めること」という要素を盛り込み、「ふるさと甚目寺」をキーワードに、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを大切にし、持続可能な社会を築くための人づくりを中心に活動を組み立て、人や地域と積極的に「かかわろう、伝えよう、つながろう」とする児童をはぐくんでいます。



特色ある学校づくり構想図

2 内容

(1) 地域とつながる活動（総合学習）

※ 総合学習とは、「生活科」と「総合的な学習」の甚小独自の総称です。

1年生は「みんななかよし」をテーマに、学校探検・地域探検をし、その後、探検でお世話になった甚目寺観音などに、「えがおのあさがお」運動として、生活科で育てた朝顔をプレゼントしました。2年生は、「この町大すき」をテーマに、駅前商店街を中心に探検し、店の方と交流をしました。その後、町のよさをみんなに伝えるために自分たちができることを話し合い、町のすてきなところをポスターに描いて宣伝しようということになり、お店のPRポスターを作りお店に貼ってもらいました。3年生は、「人にやさしい町づくり」をテーマに取り組んでいます。福祉体験教室で「福祉」ということを知り、違いを認め合い、みんなが幸せになるようにすることが大切だということを学ぶことができました。その後、町の中のバリアフリーの工夫を調べたり、デイサービスセンターを訪問してお年寄りとおふれあったりして、活動を深めています。4年生は、「環境にやさしい町づくり」をテーマに取り組みました。自分たちの身のまわりの環境に目を向け、グリーンカーテンを育ててその効果を確かめたり、出前授業で講師の方々から環境について教えていただきました。その後、自分たちでできるエコチャレンジに取り組み、研究の成果をみんなに伝えることができました。5年生は「われら産業調査隊」をテーマに取り組みました。甚目寺の伝統産業である刷毛についての出前授業を受け、地域の産業に興味をもった子どもたちは、その後、グループごとに地元企業の工場や商店、農家などに実際に取材に出かけ、見て感じて関わるという貴重な体験をすることができました。2月には、甚目寺観音てづくり朝市に参加し、甚目寺の産業や特産物を紹介したり、自作の小物や校庭で実ったレモンを販売し、来場者に地域のことを紹介します。6年生は、「われら歴史・文化調査隊」をテーマに取り組みました。甚目寺の歴史や遺跡についての出前授業などで、甚目寺

の歴史の一端を学び、その後、甚目寺をより深く調べようと、グループごとに甚目寺の歴史にかかわるテーマで取材活動を行いました。その中で、子どもたちは地域の歴史の深さや価値を実感することができました。

本年度は、道徳とE S Dの活動の連携を模索し、道徳の時間に、人々の活動に込める「思い」について、考えたり話し合ったりしました。このことから、地域について調べる際にも、そこに生活する人々の願いや苦勞、工夫などにも注目する姿が見られるようになりました。

11月には「総合学習発表会」として、自分たちが学んだことを、お世話になった地域の方や家族に発信しました。どの学年も、自分たちの思いが伝わるように工夫し、充実した発表会となりました。



甚目寺観音てづくり朝市出店

(2) 人とつながる活動

ア 人間関係づくりのための体験的活動

他者とのつながりを深める手だてとして、異学年・ペア学年を中心とした交流活動の充実に努めています。また、5年生では、言葉の引き出しをたくさん持ち、自分の気持ちの伝え方を学んで、人と接する態度の向上を図るためにハッピートークトレーニングに取り組みました。年3回実施し、回数を重ねる毎に自信のある言葉が増え、雰囲気も明るくなってくることが実感できているようです。6年生では、自分の意見や気持ちをその場にふさわしい表現でできるようにし、相手との良好な関係を築くためのアサーショントレーニングに取り組んでいます。このような取組により、児童の自尊感情が高まったり、相手のことも思いやった表現ができたりするなど、自分も相手も大切にすることができる子どもたちを育てています。また、Q U調査を実施し、個々の児童の学級の所属意識等を確認することで、教育相談に役立てています。

イ 甚小まつりの活動

甚小まつりでは、学級ごとにお店を出し、全校でふれあいながら楽しくお店をめぐっています。ドッキリやしき、工作ランドなどクラスごとに子どもたちが工夫を凝らした企画の店が並び、子どもたちは店番とお客を交代しながら楽しんでいました。クラスの友だちと一っしょに、また、6年生は1年生の手を引き「どこに行きたいの」と希望を聞きながら一っしょに楽しむことができました。保護者の方もたくさん参加され、子どもたちは、多くの人とふれあい、交流を深めることができました。

ウ エコキャップアート活動

児童会では、ペットボトルキャップとアルミ缶回収運動を行っています。その集めたペットボトルキャップを使って、甚小オリジナルキャラクター「じんちゃん」のキャップアートを制作しました。今年度はさらに各学年目標をもとに、学年オリジナルマークデザインを募集し、各学年でキャップアートを制作しました。学年目標についてみんなで考えるよい機会になりました。



エコキャップアートじんちゃん

(3) 世界とつながる活動

ア エコキャップ運動

甚目寺小学校は、エコキャップ運動に参加しています。エコキャップ運動とは、ペットボトルのキャップを集め、リサイクルすることにより、発展途上国の子どもたちにワクチンを贈る運動です。児童会を中心に活動を進め、各家庭の協力により、これまでに40万個以上、520人分以上のワクチンを贈ったことになります。今後も継続して活動を進めていきます。

イ 世界寺子屋運動

ユネスコスクールへの加盟を機に、ユネスコが進めている世界寺子屋運動に参加することになりました。世界寺子屋運動は、発展途上国の子どもと読み書きができない大人に学ぶ機会を作るための支援活動です。具体的には、みんなに世界の現状を知らせたり、書き損じはがき等や募金を集めて協会へ贈り、教育施設の建設や運営に役立てたりします。児童会を中心に呼びかけをし、活動を進めています。

3 評価

- (1) 地域に関した様々な取り組みをすることにより、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを意識するようになり、地域への愛着が深まってきています。
- (2) 本物を体験させる機会を多くすることによって、子どもたちはすばらしい発見や気づきをするようになりました。この発見や気づきは、学習する対象への興味・関心をさらに高め、自ら学んだり行動したりする子どもたちが増えてきました。
- (3) 3年生以上の全児童に3項目のアンケート調査に「思う」「少し思う」子どもたちの割合が下記のようにになりました。

「甚目寺をすばらしい町、よい町だと思いますか」の問いには **92.7%**

「甚目寺を自分のふるさととして大切にしたいと思いますか」の問いには **93.6%**

「甚目寺の現在や未来のために何か考えたり行動したりしたいと思いますか」の問いには **82.9%**と、前年度より増えています。この結果からも22年度から取り組んでいる成果が表れてきています。26年度末にも同様にアンケートを実施し、変容を調査する予定です。

4 課題

ESDは続けてこそ、その意味に迫ることができます。今後、さらに「つながる」ことを大切に、培った力を積み上げることができるように、取り組みを進めていきます。そして、持続可能な社会を築くために行動することができる人となるように育んでいきたいと思っています。

